

バイオサイエンス学科 論文発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員および研究員、○は発表者、※は卒研生または卒業生

題名	ARF6 and ARF8 contribute to tissue reunion in incised Arabidopsis inflorescence stems.
掲載雑誌	Plant Biotechnology (2014), 31, 49-53
著者	Pitaksaringkarn W, Ishiguro S, <u>Asahina M</u> , Satoh S. (植物生理学研究室)
概要	<p>シロイヌナズナ切断花茎の組織癒合過程において、オーキシンによるANAC071・RAP2.6L転写因子とジャスモン酸合成遺伝子の発現調節に、ARF6とARF8が必須の因子であることを示唆した。当研究室では、遺伝子発現解析などを担当した。この内容は、第55回日本植物生理学会（富山）、The 7th JSCR-PGRSA Joint Meeting（サンフランシスコ）においても発表した。</p> <p>※以上の内容は、「植物科学の最前線（BSJ-Review）」にも日本語で紹介されます。BSJ-Reviewは無料の電子雑誌ですので、どなたでもご覧いただけます。詳しくは、日本植物学会HPをご覧ください。</p> <p>【題名】「植物の切断組織における組織癒合へのホルモンと細胞壁代謝の関与」 【著者】朝比奈雅志, Pitaksaringkarn Weerasak、佐藤忍</p>
関連画像	<div data-bbox="604 1044 1150 1424" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="604 1433 997 1472">発現解析に使用したリアルタイムPCR</p>